令和４年度粟野顕彰会教育講座

今、あらためて考える「生きる力」とは？

～大人も子どもも元気になる 脳と言葉の使い方～

令和５年２月４日（土）９：２０～１２：２０（９：００受付開始）
一関文化センター中ホール（岩手県一関市大手町２－１６）
予 約 不 要 ＆ 入 場 無 料

本シンポジウムでは、昨今教育の目的として掲げられている「生きる力」について考えます。

そもそも「生きる力」とはどのように捉えたら良いのでしょうか？そしてまた、その「生きる力」を育むためには一体何が必要なのでしょうか？

親や教師を始めとした私たち大人は、一所懸命に子どもたちに関わって彼らを強く自立した大人に育てたいと心から願い、指導の在り方を模索し続けてきました。しかし、もし「子どもたちを指導する」という考え方自体を変えなければいけないとしたら、皆さんはどのようにお感じになられるでしょう。

一般に「過去と他人は変えられない」と言われています。本講座受講後、皆さんはまさにこの言葉が子どもたちの「生きる力」を育むうえで、重要なキーワードとなっていることに気付かされることでしょう。

本講座では、養護教諭時代の豊富な経験と脳科学の知識を踏まえて、様々な子どもたちの問題を解決するのみならず、多くの親や教育関係者への指導を行って来られた桑原朱美先生と、日々その実践活動を行っておられる養護教諭の片岡千帆子先生、向田菜都子先生をお招きして、理論的な側面と教育現場での実践事例の両面について、皆さんにご紹介したいと存じます。

教育関係者のみならず、多くの市民の皆さんのご参加を心よりお待ち申し上げております。

■開催スケジュール

９：２０～　９：２５　主催者あいさつ
９：２５～１１：１０　講演　桑原朱美氏
「大人も子どもも元気になる 脳と言葉の使い方」
１１：２０～１２：２０　実践事例紹介
発表者＝八戸市立城北小学校養護教諭　向田菜都子氏
八戸市立下長中学校養護教諭　片岡千帆子氏
助言者＝桑原朱美氏
司　会＝粟野顕彰会事務局次長　畠山勝彦

■講師略歴

桑原（くわはら） 朱美（あけみ） 氏

NLP教育コンサルタント。一般社団法人ハートマッスルトレーニングジム代表。主体的人生を構築する人材育成トレーナー。島根県生まれ。愛知教育大学卒業。教育困難校の保健の先生として25年間勤務。全国1000以上の学校現場で採用されているオリジナル教材や、「保健室コーチング」など独自のメソッドで研修、講演会で活躍中。「保健室コーチング！養護教諭の『現場力』」（明治図書出版）「保健室から見える親が知らない子どもたち」（青春出版社）「子どもは『親の心配』をランドセルに入れて登校しています」（WAVE出版）などの著作に加え、新聞やテレビへの執筆、出演多数。

主催：粟野健次郎顕彰会
後援：一関市教育委員会、平泉町教育委員会、岩手日報社、岩手日日新聞社、河北新報社、
ＩＢＣ岩手放送、一関ケーブルネットワーク、一関コミュニティＦＭ
※本事業は、一関市の令和4年度地域おこし事業です。

■お問い合わせ　粟野健次郎顕彰会事務局　ＴＥＬ：０８０－５５７９－８２３４（佐藤）

令和4年度粟野顕彰会教育講座

「今、あらためて考える『生きる力』とは？」

～大人も子どもも元気になる 脳と言葉の使い方～

開 催 趣 旨

粟野健次郎顕彰会では平成6年の設立以来、教育をテーマとした公開講座等を開催してきました。

昨今では、「学力の向上」「あるべき部活動の姿」「メディアとの適切なかかわり方」をテーマとしたシンポジウムの開催等を通じて、地域の教育力向上の一助となるために種々の活動を行ってまいりました。

さて、皆さんも既にご存じの通り「生きる力」に関連する重要な指標の一つである「自己肯定感」について諸外国と比較すると、我が国の子どもたちの指標は著しく低い、という実態が内閣府の調査で明らかになっています。

そこで粟野健次郎顕彰会では昨年度から2年間にわたり「生きる力」をテーマに選び、幾多の議論を重ねて今回、本事業を企画いたしました。

初年度の昨年は、一関及び平泉地域に加えて秋田県東成瀬村の子どもたちの「自己肯定感」を始めとした指標についての実態を明らかにするため、アンケート調査を実施し、その調査と分析によって、地域における「生きる力」の現状の一端を明らかにいたしました。

そして本年度は、そもそも「生きる力」とは一体何か、またどうすれば「生きる力」を身につけることができるのか、というテーマでシンポジウムを開催する運びとなりました。

「生きる力」とは鋼鉄のように折れない強さを指すのではなく、たとえ一旦は挫折しても、すみやかにかつしなやかに復元する竹のような強さ、すなわち「レジリエンス」が大切だと考えられております。

そして、大人自身がこうした「生きる力」を高めるべく、脳と言葉の正しい使い方についてご理解いただくことが、何よりもまず第一に大切であることがおわかりいただければ幸いです。

粟野健次郎と顕彰会について

粟野健次郎は「（旧制）二高の至宝」と評された教育者で、元治元(1864)年一関で生まれました。一関藩奉行職であった父匡は維新後の廃藩置県によって失職し、一家は新潟に転住します。健次郎は新潟英語学校で学んだ後、単身東京に渡って図書館などで独学に励みました。古今東西の書籍を原書で読破し、天下の難関と言われた文部省中学校師範学校英語科教員検定試験に抜群の成績で合格しました。最初の試験では、健次郎の解答があまりにも完璧だったために「事前に試験問題が漏れたに相違ない」との憶測から再試験が行われたほどでした。再試験でも健次郎は見事な解答をし、面接では逆に面接の試験官をやり込めて「後生恐るべし」と言わしめたと伝えられています。

こうして英語教師の職を得た健次郎でしたが、当時の英語の第一人者からその実力を高く評価されて、間もなく旧制第一高等学校（現在の東京大学教養部の前身）の英語教師に抜擢されました。その後明治25(1892)年に旧制第二高等学校（現在の東北大学教養部の前身）が新設されると、健次郎は教授として赴任しました。

粟野教授

健次郎の教え子たちはその後各界で活躍し、国家繁栄の礎となりました。内閣総理大臣を務めた若槻礼次郎、文豪夏目漱石、物理学者で金属工学者の本多光太郎、詩人で英語学者の土井晩翠や文芸評論家の高山樗牛、大正デモクラシーの代表的な論客だった吉野作造など数多くの人材を育てました。教え子や同僚からの尊敬や信頼も厚く、二高退官後まもなく彼の退官を記念した観音像が建立され、その約半世紀後には二高同窓会によって粟野健次郎の功績を記す碑文が製作されました。

このように粟野健次郎は日本を代表する英語学者で優れた教育者でありました。しかし、世の名聞に恬淡たる健次郎は一冊の著書も残さず、ある教え子から「粟野先生ほど偉大でかつ無名な人はいない」と評されるほど世の名声に程遠い人でした。

こうした健次郎の人となりを明らかにしてその功績を顕彰すること、そして教育が持つ偉大な価値を今一度世に問うことを目的として、平成6年に粟野健次郎顕彰会が設立されました。教育講座「教育のこれから」や公開市民講座「郷土の偉人、人間・粟野健次郎」等の活動を通じて地域の教育力を高める活動を行いつつ、平成28年3月には健次郎の生涯をまとめた伝記「観音になった男　～知られざる偉人・粟野健次郎～」を編纂し出版いたしました。

お問い合わせ：粟野健次郎顕彰会事務局　TEL：０８０－５５７９－８２３４（佐藤）